

災害時避難行動マップ

指定緊急避難場所 

指定緊急 避難場所	災害種別					
		洪水・ 内水氾濫	土砂災害	津波	大規模 な火事	地震の 揺れ
① 大高南小学校	2階以上	○	—	×	グラウンド	
② 大高中学校	中棟・北棟	中棟・北棟	—	×	グラウンド	
③ 大高南コミュニティセンター	○	○	—	×	×	
④ 森の里荘4棟	×	×	3階以上	×	×	

【重要】 指定避難所の収容人数には限りがあります。避難所での生活は環境の変化から体調を崩す方も多いため、自宅で避難生活を送れるように、家具の固定と、7日分の備蓄を進めましょう。

2. アンダーパス、よく冠水・浸水する場所
掘り下げ式の道路であるアンダーパスやよく冠水したり、過去に浸水した場所は浸水している可能性があるため、避けて避難する。

地域防災協力事業所 	災害時に地域に対して支援協力してくれる事業所です。 イオン大高ショッピングセンター 荏原商事株式会社 中部支社大高事務所 株式会社スギ薬局 大高南店
公衆電話 	NTTが設置する公衆電話は、災害時には優先的につながり、状況に応じて無料になります。
【その他】	・ コンビニ、スーパーなどの商業施設 営業していれば物資の調達が可能 公衆電話が設置されている店舗あり ・ 病院、診療所など

緑区

世帯：3,431 世帯

大高南学区

人口：8,492 人 面積：1.451 km²
(令和2年1月1日現在推計人口より)

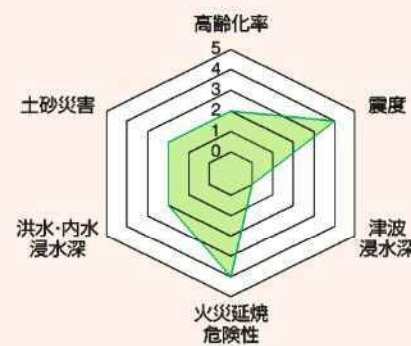
大
の地

努めましょう。また、JR東海道線沿いには液状化の可能性の高い地域があります。液状化が発生すると、建物が傾いたり、路上に泥水が流れ出し、通ることができなくなることがあります。

学区の中には、大高川や瀬木川が流れており、愛知用水やため池もあることから、台風などの風水害時には注意が必要です。これらを踏まえ、適切な避難先とそこまでの安全な経路を考えておきましょう。

リスクレーダーチャート

	値	5段階
高齢化率	16.7%	2
震度	6強	4
津波浸水深	0m	0
火災延焼危険性	1,000~2,500棟未満	4
洪水・内水浸水深	0.5~1.0m 未満	2
土砂災害	警戒区域に 人家10件未満	2



お住いの地域のことを知っておくことは大切です。ハザードマップをはじめとした災害リスクや避難先のほか、地形、歴史、建物状況（密集状況や古いブロック塀など）及び防災活動状況等を確認し、家族や町内会・自治会で話し合うなど、日頃から防災、減災意識を高めいざという時に備えましょう。

●参考資料として「地区防災カルテ」をご活用ください。
名古屋市 地区防災カルテ 検索

学区の キャッチフレーズ

つなげ ひろげ
むすびつく
人と人の輪(和)

外国人の方へ (For Foreign Residents)

外国人に覚えてほしい防災のポイントを知ることができます。

You can find important disaster prevention information for foreign residents at the following website.

(<http://www.city.nagoya.jp/kankobunkakoryu/page/0000088955.html>)



火災から命を守るために「今」できること

● 住宅用火災警報器を設置する。

寝室、寝室がある階の階段、台所に設置が必要です。火災を早く発見し、未然に防ぐだけでなく、隣近所への燃え移りを防ぐことができます。また、設置後も定期的に、動作確認をしましょう。



● 住宅用消火器等を設置する。

小型で軽く、取り扱いが簡単な住宅用の消火器や、片手で素早く使えるスプレー式で、天ぷら油などの火災に威力を発揮するエアゾール式簡易消火具を備えておくと、いざという時に役立ちます。



● 感震ブレーカーを設置する。

地震の揺れを感知すると、自動的にブレーカーを落として電気を止める機器です。不在時やブレーカーを切って避難する余裕がない場合に電気火災を防止するために有効です。

● 隣近所の協力体制をつくる。

「自分たちのまちは自分たちで守る」という意識をもって、隣近所で声を掛け合うなど地域ぐるみで「放火されない環境づくり」に努めることが放火対策の重要なポイントです。



一人ひとりの力を合わせて、大規模災害に立ち向かう!



◆ 災害の恐れがなくなった後も、避難生活は続きます。自宅（在宅避難）が一番ですが、自宅に戻れない場合は、「避難所管理組織」のもと、避難所で助け合って生活します。

◆ 「災害救助地区本部」は、区本部の補助機関であり、学区の被害や必要物資などを整理して区本部（区役所）に伝えるほか、様々な防災情報を学区の住民に伝達します。

避難先へ安全に避難するための5つのポイント

① ガス・水道の元栓を締め、ブレーカーを切る!



② 「一緒に逃げよう」近所への声かけ!



③ 高齢者や障害者などの避難誘導を!



④ 原則徒歩で! (渋滞抑止・高齢者や障害者などの避難を妨げない)



⑤ 木造住宅密集地、がけ地や川の近くは避けて!



一人では逃げられない方への対応

過去の災害では、周囲からの「声かけ」と「避難の手伝い」が、高齢者や障害のある方などの避難行動を早めました。日頃から一人で逃げられない方を把握し、地域みんなで、いち早く避難行動がとれるよう協力しましょう。

情報の入手や判断が難しい方



移動が難しい方



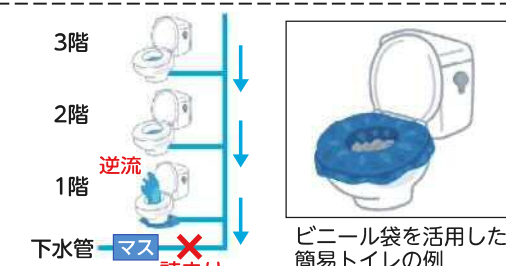
マンションでの防災・減災

マンションは耐震性・耐火性のほか、保安面で優れていますが、大規模災害時には、長周期地震動による揺れ、火災延焼、エレベーター停止、断水等によるトイレの使用制限、住民の室内の様子が分かりにくい等マンション特有の懸念もあります。安心して生活するためにも、普段からの備えを進めましょう。

(例) 出典：気象庁ホームページ



● 高層建築物は、長周期地震動と共振して長時間、大きく揺れる。
(家具の転倒防止。できない場合でも部屋に「こだけは安全!」という場所をつくる)



● 配水管が安全確認できるまでできるだけ水を使わない。
(下階における汚水の逆流防止。簡易トイレ(便袋)などを活用)



● 地域コミュニティとの良好な関係
(日頃の挨拶・声掛け。熊本地震では地域と良好な関係を築いていたマンションに、地域の働きかけで支援物資が届いた事例がある)